

第3章 調査研究の結果

3.1. データ収集について

3.1.1. 一般原価調査

(1) 調査結果が回収されるまでに要した日数

調査結果が回収されるまでに要した日数は、図表 3-1 であった。ただし、日数には、休日を含む。また、データ収集は各調査項目とも、平成 18 年 12 月 22 日から同時に開始した。

図表 3-1 調査結果が回収されるまでに要した日数（一般原価調査）

No	調査項目	病院									平均	
		A	B	C	D	E	F	G	H	I		
1	収支計算ファイル	39	26	40	42	42	32	36	40	—	37	
2	レセプト・データ もしくはE、F、 Gファイル	入院	16	16	25	14	32	13	—	19	—	19
		外来	33	33	25	14	32	13	—	19	—	24
3	医師勤務に関する調査	43	40	41	29	42	32	36	42	—	38	
4	手術、検査、画像診断の 実施場所に関する調査	9	6	—	—	—	6	—	12	—	8	

(注) 日数は、病院説明会から調査班のデータ受領日までの期間。また、「手術、検査、画像診断の実施場所に関する調査」については、調査シート送付日から当該シート受領までの期間。

(2) 調査票の収集について

調査票の収集時に、個々の病院からの照会等により、以下の情報が得られた。

(ア) 収支計算ファイル

① 施設全体収支データ

医業収益について、入院料収益、入院診療収益について、分けて計上している病院は、8病院中4病院であった。また、医業外収支については、すべての病院よりデータを収集することができた。

② 部門設定

「地域連携」を、補助・管理部門として捉えていた病院があった。

救急外来は処置後、入院部門のいずれかの科に振り分けをする部門と位置づけられるので、中央診療部門に登録した。

③ 直接計上情報

一部の調査対象病院では、収益の一次計上において、Eファイルをもとに部門別に計上した。この場合、転棟ケースのため、正確に計上できない場合があった。

④ 基礎情報

外来における給食食数の把握にあたり、透析を目的とした外来通院者の給食食数を調査票に記載した。

(イ) レセプト・データもしくはE、F、Gファイル

レセプト・データもしくはE、F、Gファイルを収集した。病院別の収集データは図表 3-2 のとおりであった。

図表 3-2 病院ごとの収集データ一覧

No	病院	データ種類		備考
		入院	外来	
1	A病院	E、F、G	レセプト・データ	
2	B病院	E、F、G	レセプト・データ	
3	C病院	レセプト・データ	レセプト・データ	
4	D病院	レセプト・データ	レセプト・データ	
5	E病院	E、F	レセプト・データ	Gファイルは収集せず
6	F病院	E、F、G	E、F、G	
7	G病院	レセプト・データ	レセプト・データ	
8	H病院	E、F、様式5	E、F、様式5	様式5はGファイルの代替

(注1) A病院、B病院、およびE病院は、外来のE、Fファイルの代替として、レセプト・データを用いた。

(注2) E、F、Gファイルを収集したが、収集されたファイルの記録状況を確認後、診療行為の実施状況は診療明細情報であるEファイルを用いて把握し、Fファイルは実施場所等の参考情報を得るためのみ利用した。

(ウ) 医師勤務に関する調査

各調査協力病の調査方法は図表 3-3 のとおりであった。

図表 3-3 調査協力病院ごとの調査方法

No	病院名	医師勤務に関する調査		
		方法1	方法2	方法3
1	A病院	—	—	○
2	B病院	—	—	○
3	C病院	○	○	○
4	D病院	—	—	○
5	E病院	—	—	○
6	F病院	—	—	○
7	G病院	○	—	—
8	H病院	—	—	○

(エ) 手術、検査、画像診断の実施場所に関する調査

特になし

3.1.1.2. 特殊原価調査

(1) 調査結果が回収されるまでに要した日数

調査結果が回収されるまでに要した日数は、図表 3-4のとおりであった。ただし、日数には、休日を含む。また、データ収集は平成18年12月22日から開始した。

図表 3-4 調査結果が回収されるまでに要した日数（特殊原価調査）

No	調査項目	病院			平均
		A	E	I	
1	設備関係費等価係数の作成のため調査	48	61	55	55
2	給与費、材料費等価係数の作成のための調査	22	—	—	22

(注) 日数は、病院説明会から調査班のデータ受領日までの期間。

(2) 調査票の収集について

(ア) 病院個別の収集方法について

各病院の保有する設備関係費データを事前に入手し、各病院の実態に即した調査シートを作成し、データを収集した。

(イ) データの収集件数について

特殊原価調査にて収集したデータを基に作成できた等価係数件数は、診療報酬点数表部別に図表 3-5 となった。

設備関係費の等価係数作成実績件数は、手術で110件、検査（院内）で34件、画像診断で10件であった。

図表 3-5 診療報酬点数表部別等価係数作成実績表

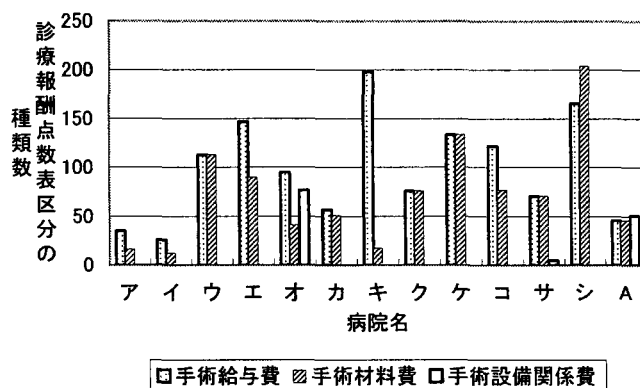
診療報酬点数表		等価係数作成実績件数		
部	区分種類数(全数)	給与費	材料費	設備関係費
手術	964種類	413種類 (409種類)	357種類 (352種類)	110種類
検査(院内)	194種類	146種類 (138種類)	97種類 (97種類)	34種類
検査(院外)	27種類	24種類 (24種類)		
画像診断	16種類	13種類 (13種類)	10種類 (10種類)	10種類

(注) 給与費の等価係数および材料費の等価係数は、平成16年度調査研究における実績（カッコ内に記載）を含めて表示

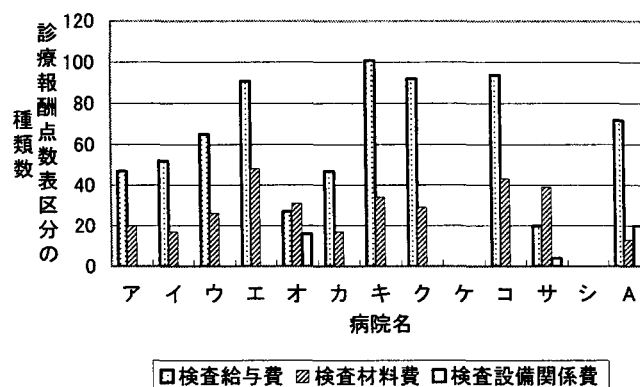
個別の病院ごとに作成できた診療報酬点数表区分の種類数は図表 3-6 のとおりであった。図表中、「ア」から「シ」は、平成 16 年度調査協力病院を表す。

ただし、平成 16 年度でのウ、エ、オ、キ、サ病院は、それぞれ、平成 17 年度調査研究の C、D、E、G、I 病院である。

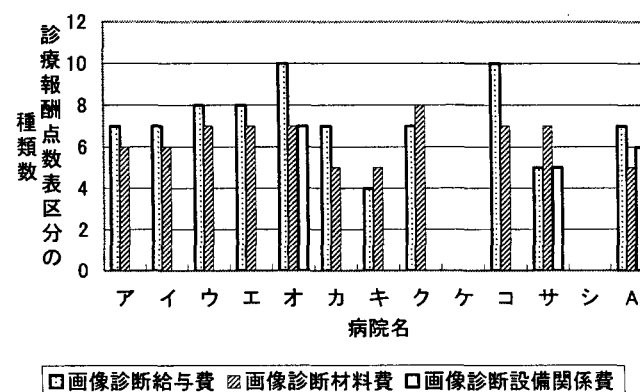
図表 3-6 個別の病院ごとに等価係数を作成できた診療報酬点数表区分の種類数（手術）



図表 3-7 個別の病院ごとに等価係数を作成できた診療報酬点数表区分の種類数（検査）

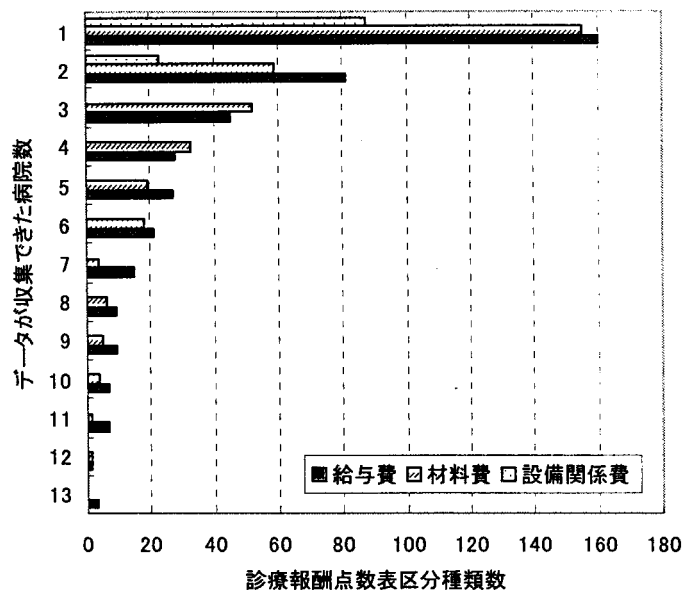


図表 3-8 個別の病院ごとに等価係数を作成できた診療報酬点数表区分の種類数（画像診断）

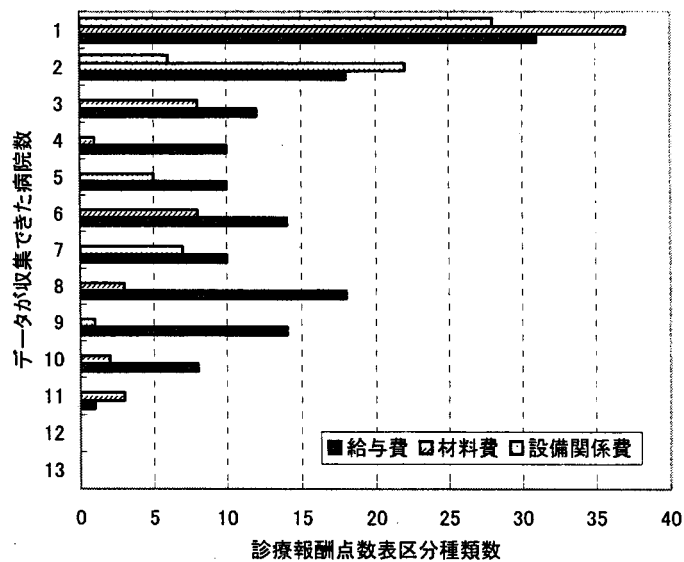


また、収集できた病院数を診療報酬点数区分別にみると、図表 3-9、図表 3-10、図表 3-11 のとおりであった。

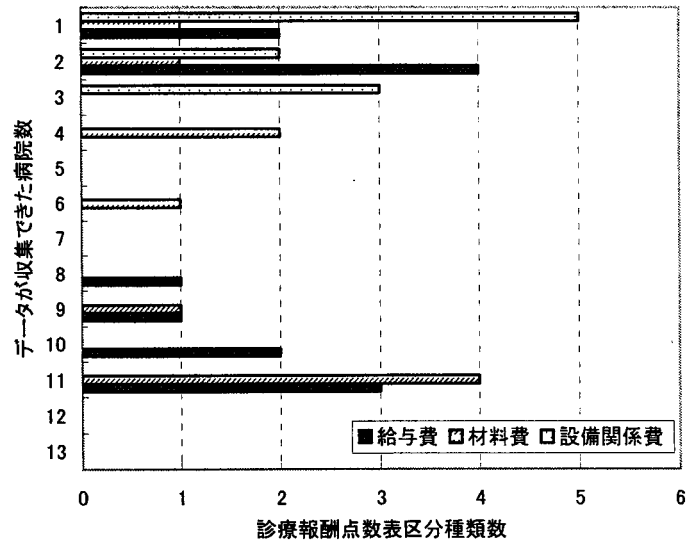
図表 3-9 データを収集できた病院数と診療報酬点数表区分の種類数
(手術)



図表 3-10 データを収集できた病院数と診療報酬点数表区分の種類数
(検査)



図表 3-11 データを収集できた病院数と診療報酬点数表区分の種類数
(画像診断)



3.2. 集計結果

3.2.1. 部門別収支計算結果

3.2.1.1. 病院別の収支計算結果（入院、外来、中央診療、補助・管理の各部門別）

病院別の収支計算結果を、入院、外来、中央診療、補助・管理の各部門別に集計した。

三次配賦において手術、検査および画像診断の各部署に計上されていた医業収益、費用は当該病院で作成した等価係数を使用し原価計算を行った。ただし、平成16年度調査研究および平成17年度調査研究にて、特殊原価調査を実施しなかった病院については、特殊原価調査より導出された標準的等価係数を使用し、導出した。なお、設備関係費に関する標準的等価係数を用いた配賦は、「第4章 考察」を参照のこと。

病院ごとの収支計算の三次配賦は、特殊原価調査を実施しない病院については、標準的等価係数を用いて計算した。病院ごとに使用した等価係数の種類は、図表3-12のとおりであった。

図表 3-12 病院ごとの収支計算に使用した等価係数の種類

No	病院名	収支計算に使用した等価係数の種類	
		病院独自の等価係数	標準的等価係数
1	A病院	○	—
2	B病院	—	○
3	C病院	○	—
4	D病院	○	—
6	E病院	○	—
7	F病院	—	○
8	G病院	○	—
9	H病院	—	○

ただし、標準的等価係数は、設備関係費の等価係数を含まない。

設備関係費の等価係数を用いた計算、および標準的等価係数を用いた収支計算の考察は、「第4章 考察」を参照のこと。

3.2.1.2. 医業収支における一次計上および二次配賦結果について

病院ごとに、入院、外来、中央診療、補助・管理部門別の収益および費用の比率を算出した。

なお、各病院の病床数は、図表 3-13 のとおりである。ただし、I病院は特殊原価調査のみを実施したため、結果は記載しない。

図表 3-13 調査協力病院ごとの病床数

病院名	病床数
A病院	160
B病院	160
C病院	199
D病院	274
E病院	304
F病院	329
G病院	360
H病院	1188
I病院	465

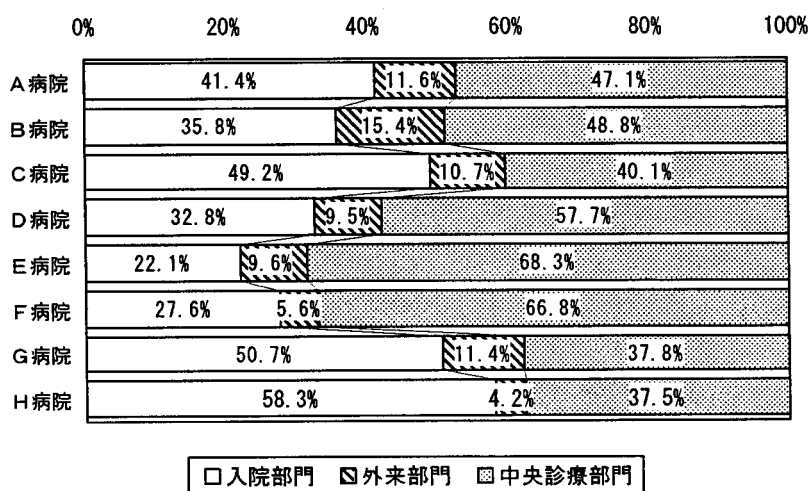
(1) 一次計上結果

(ア) 医業収益合計

医業収益を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きい病院はH病院で、全体の58.3%を占めた。外来部門ではB病院の比率が最も大きく15.4%であった。中央診療部門ではE病院が最も大きく68.3%であった。

ただし、D病院、E病院、およびF病院の入院料収益は、纏めて入院診療収益に計上された。

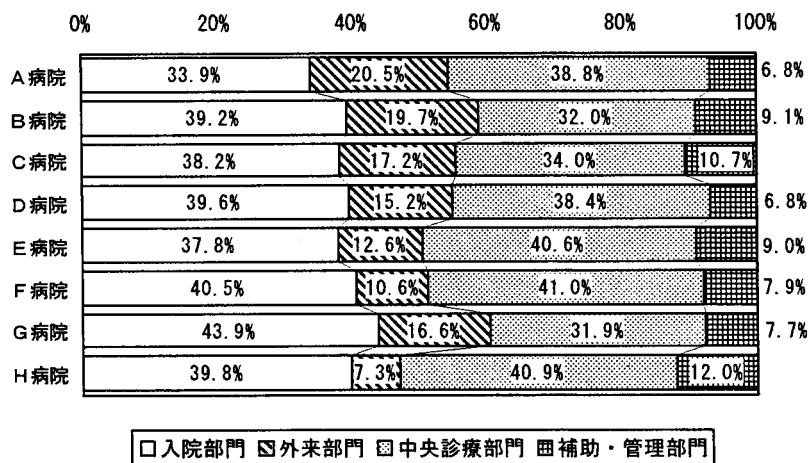
図表 3-14 一次計上結果（医業収益合計）



(イ) 医業費用合計

医業費用合計の構成比を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きいのはG病院で、全体の43.9%を占めた。外来部門では、A病院の比率が最も大きく20.5%であった。中央診療部門ではF病院が最も大きく41.0%、補助・管理部門ではH病院が最も大きく12.0%であった。

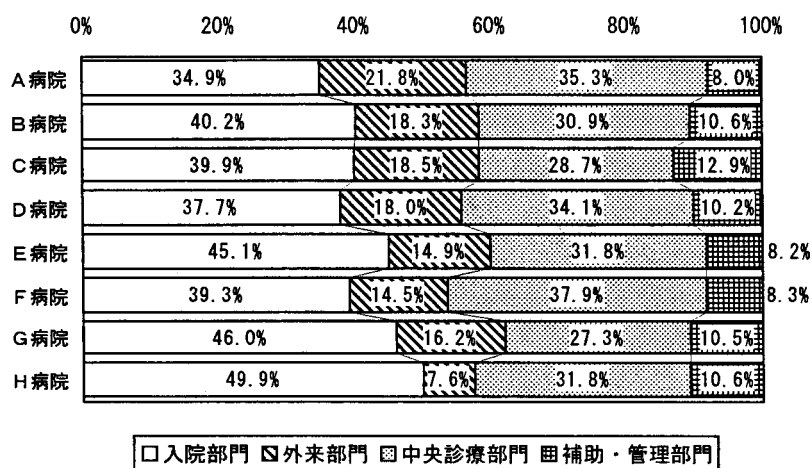
図表 3-15 一次計上結果 (医業費用合計)



① 給与費

給与費を病院別にみると、入院部門の比率が大きいのはH病院で、全体の49.9%を占めた。外来部門では、A病院の比率が大きく21.8%であった。中央診療部門ではF病院が最も大きく、37.9%であった。補助・管理部門ではC病院が最も大きく12.9%であった。

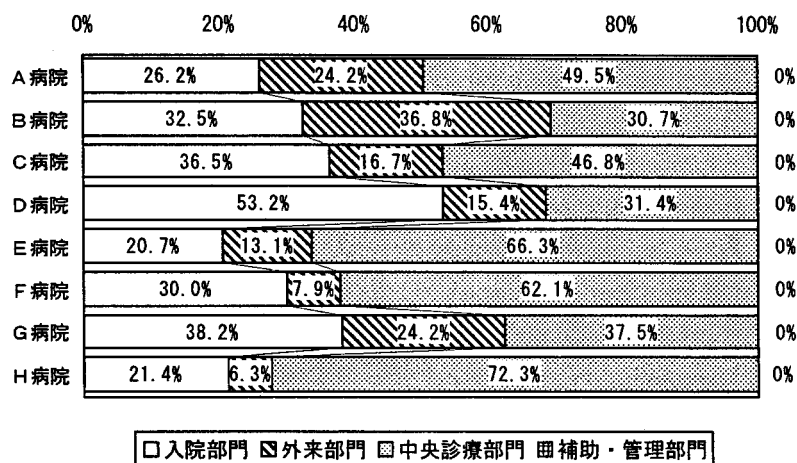
図表 3-16 一次計上結果 (医業費用・給与費)



② 材料費

材料費を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きいのはD病院で、全体の53.2%を占めた。外来部門では、B病院の比率が最も大きく36.8%であった。中央診療部門ではH病院が最も大きく72.3%、補助・管理部門はいずれの病院もゼロであった。

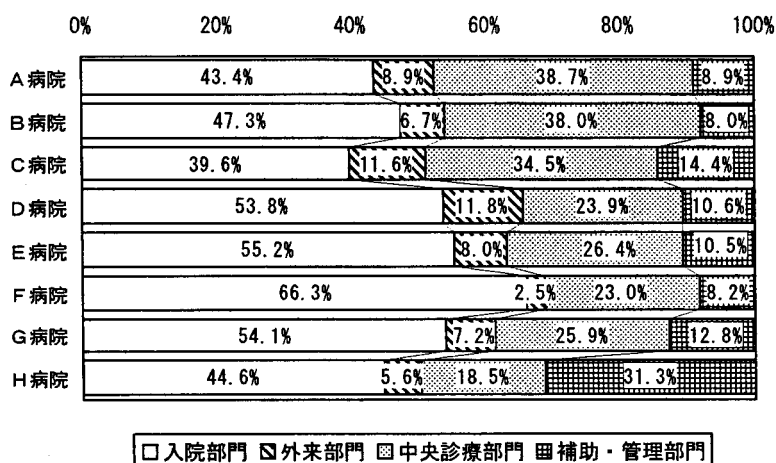
図表 3-17 一次計上結果（医業費用・材料費）



③ 経費

経費を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きい病院は、F病院で、全体の66.3%であった。外来部門では、D病院が最も大きく11.8%であった。中央診療部門では、A病院が最も大きく38.7%であった。補助・管理部門ではH病院が最も大きく31.3%であった。

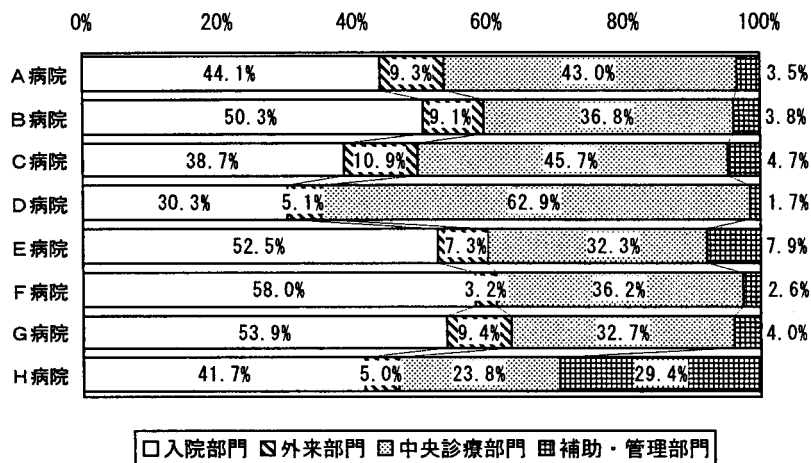
図表 3-18 一次計上結果（医業費用・経費）



④ 設備関係費

設備関係費を病院別にみると、入院部門が最も大きい病院はF病院で、全体の58.0%であった。外来部門が最も大きい病院はC病院で、10.9%であった。中央診療部門が最も大きい病院はD病院で、62.9%であった。補助・管理部門ではH病院が最も大きく、29.4%であった。

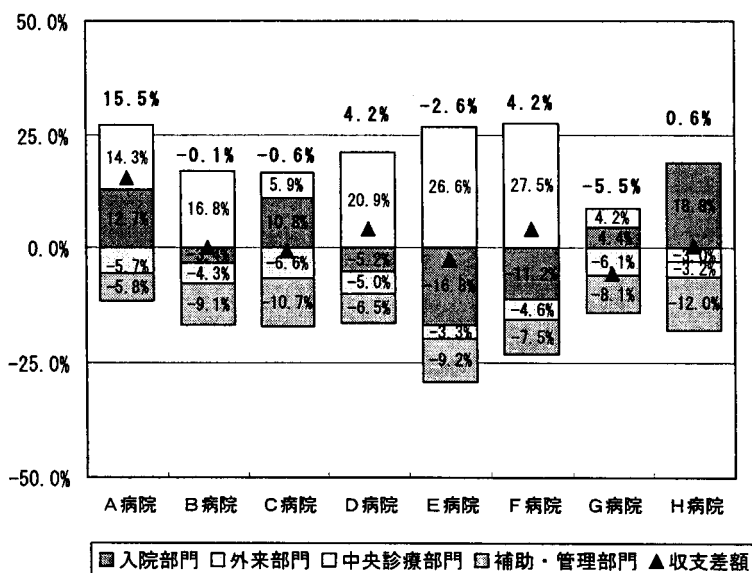
図表 3-19 一次計上結果（医業費用・設備関係費）



(ウ) 医業利益

医業収益合計を100としたときの各病院の医業利益率は、-2.6%~15.5%となっており、その部門別内訳は下記のとおりであった。

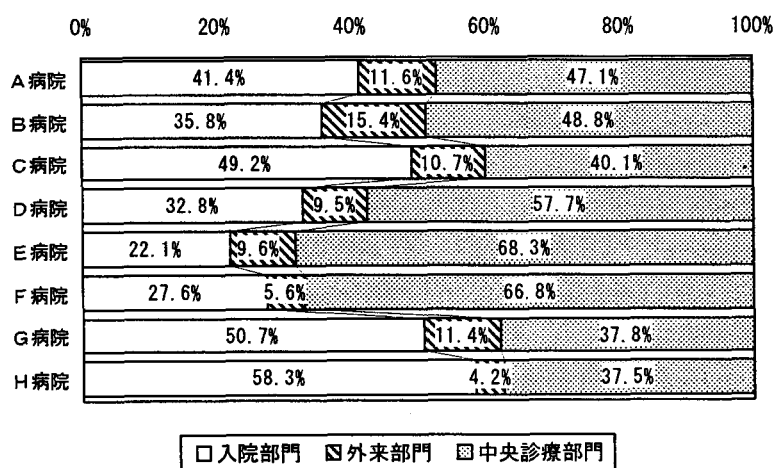
図表 3-20 一次計上結果（医業利益）



(2) 二次配賦結果
 (ア) 医業収益合計

医業収益の二次配賦結果は、一次計上の結果 ((1) (ア)) と同じである。

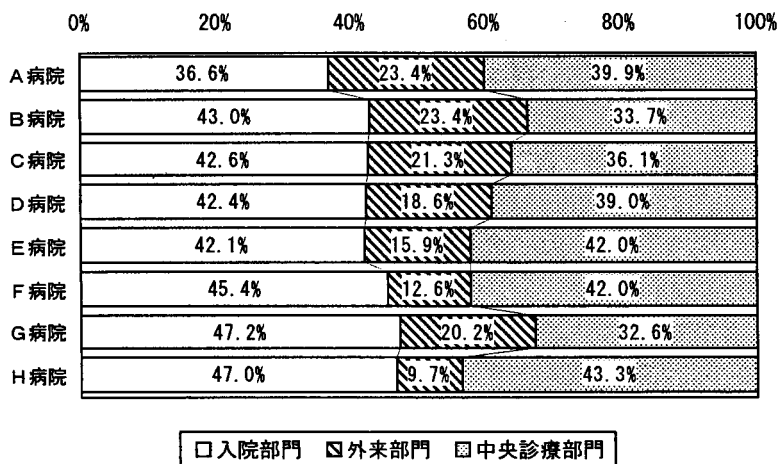
図表 3-21 二次配賦結果 (医業収益) (再掲)



(イ) 医業費用合計

医業費用合計の構成比を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きいのはG病院で、全体の47.2%を占めた。外来部門では、A病院およびB病院の比率が最も大きく23.4%であった。中央診療部門ではH病院が最も大きく43.3%であった。

図表 3-22 二次配賦結果（医業費用合計）



① 給与費

給与費を病院別にみると、入院部門の比率が大きいのは、H病院で、全体の56.1%を占めた。外来部門では、A病院の比率が大きく25.0%であった。中央診療部門ではF病院が最も大きく、38.6%であった。

図表 3-23 二次計上結果（医業費用・給与費）

